

公益財団法人 在宅医療助成 勇美記念財団
2016年度 在宅医療助成（後期）指定公募
「地域包括ケアを目的として在宅医療推進のための多職種研修会への助成」
完了報告

「地域包括ケア・在宅医療・看護・介護を通じた地域づくり」
「つくろう安心して強靱な包括ケア・街」
－先進的な医療・福祉と被災と復興の融合－

申請者： 高橋昌克
所属機関：地域医療研究会「まるごと絆」
提出年月日：2017年7月14日

地域医療研究会「まるごと絆」in 釜石の終了報告

高橋昌克

地域医療研究会「まるごと絆」in 釜石の終了報告

開催日時：平成 29 年 6 月 3 日 13 時から 18 時 30 分

会場：釜石情報交流センター チームスマイル釜石 PIT

開催趣旨

第 1 回東京、第 2 回金沢で地域医療研究会「まるごと絆」開催しました。

第 3 回は「まるごと絆の会」は釜石で開催しました。釜石は 2011 年の東日本大震災で甚大な被害を受け復興途上の街です。被災地域では全国よりも高齢化は進んでいます。被災地では急速な社会構造の変化や医療・看護・介護の技術者の流出が続いています。被災地の脆弱になったコミュニティをいかに再構築しなければならない。

全国で活躍している ①政策提供者(厚労省・財務省・地方公共団体の行政マン) ②医療提供者(医師、歯科医)③地域づくり研究者(東京大学高齢社会総合研究機構、慶応大学、金沢医科大学など) ④起業家(建築家、全国心理業連合会、ジャパンケア、シルバーグループなど) ⑤看護・介護関係者(ユニークな施設責任者) ⑥コミュニティ作りの専門家(studio-L など)の社会保障、地域包括ケアを主に構成する 6 つのステークホルダーを釜石に集合しました。岩手県の内陸部(盛岡・八幡平・北上)、沿岸部(釜石・宮古・大船渡)など在宅医療を中心とした福祉行政・医療・看護・介護関係者が全国の関係者と情報交換、仕事の協力など幅広い協力の絆になる事を目的としています。

ただしこの「まるごと絆」は参加者の意見を集約でも方向性を示すものではありません。同じ志を持った人間が各活動を広げ、切磋琢磨する会です。「天は自ら助くる者を助く」がモットーの集まりである事を心に留め置いていただきたい。

【村上智彦先生と西村元一先生の逝去】



この会の創立メンバーで、医療・看護・介護の関係者に多大の影響を与えた村上智彦先生と西村元一先生が「まるごと絆」in 釜石開催の直前に相次いで亡くられました。

村上智彦先生は、北海道・旧瀬棚町が全国に先駆けて肺炎球菌ワクチン接種の公費助成の原動力となりました。肺炎球菌ワクチン接種が全国に普及したのは彼の役割が大きかったとおもいます。2012 年には破綻した夕張市の医療再生のため在宅医療を中心とした夕張希望の杜・夕張医療センターを設立しました。夕張の取り組みは地域医療の一つモデルをつくりだしました。

その後岩見沢・旭川に拠点を移し「ささえる医療研究所」を設立し医療と街づくり・再生を目指して行動しました。2015年12月に白血病となり長い闘病生活に入りました。闘病中も病状が許す限り講演や「最強の地域医療」の執筆をして多くの人に思いを託していました。平成29年5月11日に56歳でなくなりました。

西村元一先生は金沢日赤病院副院長として消化器外科専門で活躍していました。臨床家としてだけでなく、持ち前のバイタリティーと広いネットワークで石川県・金沢における地域包括ケアの推進役となって頑張っていました。金沢の地域包括ケアのモデルを完成しました。2015年3月にstage4の胃癌と診断されました。医療者と癌患者の二つの立場の違いとズレとの葛藤の体験を赤裸々につたえていました。多くの医療者、患者双方に理解と愛情の届け方を教えてくれました。

患者・家族と医療者が語らえるやすらぎの場「元ちゃんハウス」を命を削り開設にこぎつけました。元ちゃんハウスでは患者とその家族の居場所だけでなく、医療関係者の交流の場となっています。西村先生も平成29年5月31日に58歳で亡くなりました。

二人のご冥福をお祈りします。合掌

「まるごと絆」in 釜石の開催

開催の挨拶

釜石市の山崎英樹副市長より、復興の半ばですが福祉行政と医師会、歯科医師会、薬剤師会、介護関係団体と一緒に、安心して暮らしができる街づくりに取り組んでいます。全国各地から集まった方々の経験・意見を聞き復興に役立てたいと話していました。



山崎英樹 釜石市副市長

開会の言葉

石巻市開成仮設診療所所長の長純一先生より、石巻をはじめとした岩手、宮城、福島沿岸部の医療の再生は急務である。全国から同志と地元との交流で医療再生の協力の場となる事を願っています。またこの会に先立って西村先生と村上先生を失ったのは残念でならない。二人の先生の遺志を継ぎ医療・介護の立場から地域づくりを考えて協力しましょうと挨拶されました。



長純一先生

最初の演題「絆の話」



佐藤伸彦先生

佐藤伸彦先生(医療法人社団ナラティブホーム理事長 ものがたり診療所所長)により西村先生と村上先生の共通の友として二人の考えを紹介しました。

正しいと思う道を障害を壊しながら仲間の為に道を作ってきた村上先生と、周りに気配り心配りをして人を繋ぎながら道を指し示してくれた西村先生。何故か意気が投合し最後の最後まで志を全うした。最後の病床であった2人は「死」も「生」も語らなかった。

二人とも心同じにする仲間、特に若い人のことを考えていた。最後に村上先生は「みんなさん、間違っていないから続けましょう！ 10年後にはこれが普通になっています。」、西村先生は、「繋がったら人は、さらに繋げるべき役割がある」とよく言っていたことを紹介していました。会場の多くの方は静かに頭を垂れて聞き入っていました。佐藤先生ありがとうございました。

第二演題「私の考える在宅医療」



佐々木淳先生

佐々木淳先生の悠翔会は在宅医療を中心に家での慢性疾患の治療、終末期ケア・緩和ケアにも積極的に取り組んでいます。年間の往診件数(予定外診療)は3000件、年間看取り数は200件を超えています。

一般的に在宅医療は総合医が中心としなり、総合医、家庭医の必要性が叫ばれています。しかし悠翔会では総合医の他に精神科、皮膚科・形成外科、整形外科、麻酔科、緩和ケア科、歯科医師など、それぞれの診療領域に対して専門医が対応できる体制となっています。医師歯科医師以外にも看護師、理学療法士、管理栄養士、歯科衛生士、按摩マッサージ指圧師など多職種による総合的な医療サービスの提供システムを作り上げています。さらに地域の医師会、自治会と連携、

地域と密着し、地域のニーズに対応しています。佐々木先生の独特の在宅医療の発想には驚かされました。また理想に溺れることなく財務や効率についての深い考察は、新しいタイプの医師の到来を予感させます。

第三演題「私が考える街づくり」



西上ありささん

講師は西上ありささん 株式会社 studio-L で街づくりの経験をお話してもらいました。石川県野々市市の街づくりの島根県海士町の総合振興計画づくりに参画した経験をお話していました。反対意見の住民に注目し、何に困っているか、やってみたい事を聞き出して専門家(Studio-L)に橋渡しをする。時間をかけて住民の主体性を発揮してコミュニティと民間企業、地元行政を結びつける。

この過程の中で彼らはウツと笑いに富んでいる。野々市でも医療介護は情報戦といって80歳の高齢者を迷彩服に包まれたスナイパーにして宣伝ポスターをつくり地域の人々に関心と興味をひく。Studio-Lのこの柔軟性と奇抜さが、洗礼された戦略の中に織り込まれている。Studio-Lの活動は我々に驚きと緻密さでワクワクさせる街づくり集団です。

第四演題「釜石での取り組み」

前川寛さん(合同会社 ZEN PROJECT 代表 デイサービスセンター善 管理者)に講演していただき



善での利用者さんが特大海苔巻きをつくっています。



きました。善では、デイサービスは家庭の延長だと考えています。善で過ごした時間や経験を、ご自宅に戻られてからの生活にも良い形で反映できることを一番に考えて、様々なサービスを行っています。たとえば、料理をつくるというプログラムでは、買い物から食事までを利用者さん主体で行っていただく。私たちはあくまでその手助けに徹しています。利用者さん一人ひとりに寄り添い、皆さんがより元気に、充実して日々を送れるよう全力でサポート

トしています。この方針は神奈川県藤沢市の「アオイケア」の加藤忠相さん、「ぐるんとびー」の菅原健介さん、東京・千葉の「銀木犀」の下河原忠道さんの運営思想と同じです。善では地元の医療・薬剤師とも協力してケアカフェを開き町の中に入って人を支える活動をしています。

第五演題



マギーズ東京で佐藤伸彦先生、秋山正子先生、西村先生



秋山正子先生の「マギーズ東京」開設の経緯を話していただきました。有明のがんセンターなどががん医療の中心の4医療機関が近くにあります。癌と告知され治療受けている患者その家族、友人が孤独で相談ができない方多くいます。マギーズ東京では気軽にあんしんして相談できる場所を提供しています。木造住宅を基調に有明の風が心地よく入るようになっております。館内はキッチンがあり自由に

軽食とお茶を楽しめるようになっていきます。癌だから終わりではなく、心の内を吐き出した心を立て直す居場所が必要であると話されていました。

西村先生、村上先生と共に今年の4月3日に来館しました。がん患者と家族に寄り添いお話の出来る場所のマギーズ東京の存在がこれから大きくなると秋山正子先生、佐藤伸彦先生と加わり4人で話していました。

実地講演「VRを通した認知症体験」



下河原忠道さん



VRの体験風景

下河原忠道さん(シルバーウッド代表取締役 銀木犀)

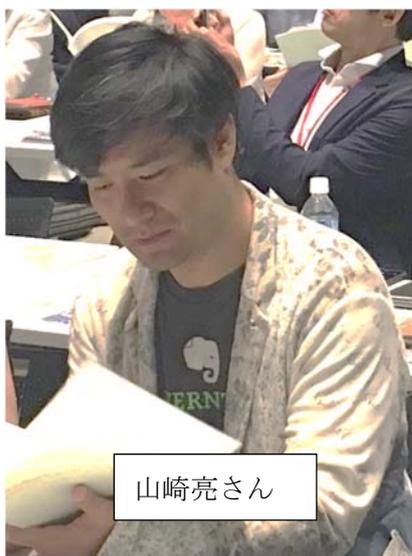
日々 認知症の方のケアに携わる人であっても、実際に認知症を経験したことはきっとないはず。自分が知らない未知のものに対する恐怖」が認知症患者と家族、医療・介護関係者との溝を大きくして

いる。そこで下河原忠道さんは、仮想現実(VR)を使い認知症の理解をってもらう活動をしています。

仮想現実(VR)の中で、実際に自分に起こった出来事として「認知症を聴覚と視覚から疑似体験」を参加者の全員がしました。

疑似体験をすることで認知症に対する「怖いもの」「遠いもの」「わからない」という偏見を払拭させます。認知症を疑似体験した人が、自分の頭の中に何かいると恐れている認知症の人を優しく「大丈夫、大丈夫」と寄り添うツールとしてVRは素晴らしい試みと思います。

総括



山崎亮さん

山崎亮さん(株式会社 Studio-L 代表)にこの会の総括をお願いしました。

これまでの発表は医療・看護・介護の発表は全て先進的な試みである。

西村先生と村上先生、ナラティブ、悠翔会、Studio-L、善、マギーズ東京、暮らしの保健室の活動とコミュニティをつなげるには心や情熱、志だけではいずれ維持できない。

採算性、効率を頭におかなければ持続可能なコミュニティづくりは不可能である。

ここに参加した皆に励ましと戒めを話してくださいました。

私(高橋昌克)は二宮尊徳の言葉を思い出します。

「**道徳を忘れた経済は、罪悪である。経済を忘れた道徳は、寝言である**」

山崎亮さんの言葉と合わせて心に刺さります。

以上で6時間以上の講演会が終わりました。参加者から怒涛の6時間と言われ、多くの方から高評価をいただきました。

さらにこの出会いにより、新たな講演会、研究会の機会が休憩時間などで生まれたようです。

介護施設と医療施設、施設と企業・研究者の新たな事業展開も生まれました。

この会の目的は「志を同じくしている人間同士が協力し合う出会いの場つくる」です。

今回の「まるごと絆」in 釜石の集合写真です。



懇親会

真面目な話の跡の懇親会は、皆さんハチャメチャな議論の場となりました。

素晴らしい仲間たちです。





参加者名簿

	敬称略	所属
総覧	辻哲夫先生	高齢社会総合研究機構特任教授・ 元厚労省事務次官
	小森貴先生	前日本医師会専務理事
	秋山正子先生	株式会社ケアーズ・ 白十字訪問看護ステーション代表
官僚・公務員	岡本浩二	川西市保健所設置対策官 前厚生労働省関東甲信越厚生局長
	矢島鉄也	千葉県病院事業統括官 前厚労省保健局長
	山崎秀樹	釜石市副市長
	田中 透	財務省 政務官秘書
	千葉 敬	釜石市健康福祉部部長
	村上徳子	釜石市保健福祉部地域包括ケア推進室次長
	川原瑞穂	釜石市保健福祉部地域包括ケア推進室主査
	村上浩継	釜石市広聴広報課
	久保眞一	川崎市健康福祉局医療政策推進室 医療・介護連携担当係長
	後藤 純	東京大学高齢社会総合研究機構
	木全真理	東京大学高齢社会総合研究機構
	村松真澄	札幌市立大学看護学部教授
	秋山美紀	慶應大学社会学准教授
	澤田友佳子 懇親会司会	岩手県職員 元釜石市市職員
	小林利彦	浜松医科大学教授
	敬称略	所属
医療者	梶 博久	金沢医科大学呼吸器内科教授 附属病院副院長
	中橋 毅	金沢医科大学北部能登 地域医療研究所長
	井階友貴	福井大学医学部地域プライマリケア講座 (高浜町国保和田診療所)講師

	染谷 浩之	オレンジホームケアクリニック代表
	北澤彰浩	佐久中央病院小海診療所長
	佐藤伸彦	医療法人社団ナラティブホーム 理事長
	高山義浩	秋田県医師会理事 伊藤医院院長
	佐々木 淳	医療法人社団 悠翔会 理事長・診療部長
	佐々木 悟	函館北陵病院 副院長
	川口篤也	函館北陵病院総合診療科部長
歯科	及川陽次	及川歯科クリニック
	五島朋幸	五島歯科(在宅)
	敬称略	所属
コミュニティ関係者	山崎 亮	studio-L 街づくり 政府諮問会委員多数
	高嵩恒男	よみの台薬局最高顧問 元テルモ副社長
	川村啓子	彦根地域医療を守る会代表
	森田洋之	南日本ヘルスリサーチラボ代表
	西上ありさ	studio-L 街づくり
	永森克志	岩見沢ささえるクリニック理事長
	長 純一	石巻市開成仮設診療所所長
	青木達人	函館北陵病院参事・事務長
	新堀 学	NPO 地域再創生プログラム副理事長
	敬称略	所属
看護・介護	上野孝子	ジャパン・ケア・サービス
	小川 利久	NPO エイジング社会研究センター理事
	秋本可愛 (総合司会)	株式会社 Joint for Kaigo 代表取締役
	下河原 忠道	シルバーウッド代表取締役 15 アジア介護・看護大会で優勝
	最上雄吾	オークフィールド八幡平
	前川寛	ディサービスセンター善
	太田宣承	特別養護老人ホーム光寿苑
	木村守男	きむら社会福祉事務所所長
	鳩岡貴士	楽山会はまゆり在宅介護支援センター
	鈴木智之	ケアマネ
	高橋三保	ホームケアえん

	鹿野正治	ディサービスセンター善
	藤原陽介	一般社団法人 岩手介護コミュニティ協会代表理事
	本田泰三	特別養護老人ホーム光寿苑施設長
	井川 齊	医療法人葵会 NSW
	菅原健介	(株)ぐるんびー代表取締役
	柴崎陽介	礼文島 介護支援専門員
	高橋和人	特定非営利活動法人里・つむぎ八幡平 理事長・統括施設長
	小野寺江利子	シルバー・グループ 総看護師長
	千葉 忍	釜石のぞみ病院 管理栄養士
	平野 因	医療法人楽山会 介護支援専門員
	久保 忍	有限会社 まごのて
	漆原啓志	街かどカフェ
	片岡みどり	介護コンサルタント
	敬称略	所属
起業家	鈴木 友紀夫	メディカル・ステージ執行役員
	鮎川沙世	株式会社 エドボンド代表取締役
	長 英一郎	東日本税理士法人
	浮世満里子	全国心理業連合会代表
薬剤	宇野 雅樹	有限会社 イナガミ薬局 代表取締役社長
	橋本昌子	株式会社スーパーデル代表取締役
	町田和敏	中田薬局薬剤師
事務	高橋昌克	一般社団法人「ゆるやかな絆」代表 釜石まちづくりアドバイザー 釜石のぞみ病院医師
	田村智子	公益財団法人シルバーリハビリテーション 八戸西健診プラザ

地域医療研究会「まるごと絆」in 釜石は
勇美記念財団 在宅医療助成を受けて
います。

地域医療研究会「まるごと絆」

代表 高橋昌克